

機関番号：41605

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008年度～2010年度

課題番号：20520064

研究課題名（和文） 『正法眼蔵』思想の宗教学的的研究

研究課題名（英文） The Shobogenzo's Thought from the Perspective of Philosophy of Religion

研究代表者

何 燕生 (HE YANSHENG)

郡山女子大学短期大学部・文化学科・准教授

研究者番号：00292186

研究成果の概要（和文）：京都学派を中心とするこれまでの哲学的研究の成果に注意を払いながら、『正法眼蔵』思想の宗教学的的研究の可能性とその意義を明らかにしようとした。具体的には、応募者のこれまでの研究成果、特に中国語の翻訳を通じて得た成果を踏まえつつ、『正法眼蔵』の成立と中国語（漢文）との関係について再検討すると共に、難解な書物とされてきた『正法眼蔵』の言葉の性格を考察した。また、『正法眼蔵』諸巻の相互間における思想的連関やテキスト全体の思想的整合性の解明を試みた。これらの作業を通じて、宗教学的な観点に基づく『正法眼蔵』思想の体系的な理解を図ると共に、仏教思想史、日本宗教史上における位置づけの解明を目標としている。

研究成果の概要（英文）：What exactly are the special features of Dogeng's Zen/Chan Thought? What exactly is their relationship with Chinese Zen/Chan thought? If we want to answer these questions all we have to do is place his ideas within the background of Sino-Japanese Zen/Chan thought, and proceed using the methodology of the history of ideas. Only by specifically analyzing concrete problems can we obtain a complete and objective evaluation. This paper is grounded in this principle, strongly revolving around the special features of his thought, etc., providing a systematic analysis.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：宗教学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：禅思想の宗教学的的研究、道元禅、『正法眼蔵』、如浄禅

1. 研究開始当初の背景

(1). 道元の『正法眼蔵』が日本を代表す

る哲学書として評価されるようになったのは、実は新しいことである。確かに江戸時代に『正法眼蔵』研究の水準は上がったが、あくまでも宗門内の問題であり、それが哲学書として見直されるのは和辻哲郎などによる再評価を待たなければならなかった。和辻をはじめとする近代の哲学・思想家たちによる道元『正法眼蔵』の「発見」の意義は大きいですが、同時に、彼らの問題関心は近代西洋哲学をいかに理解するかにあるのであり、古典の近代的な読み直しによる新しい解釈という面を強く持ち、しかしも極めて断片的な理解にとどまっていることも指摘できる。

戦後、『正法眼蔵』についての研究は多くの方面からなされてきたが、その主流をなすものとしては曹洞宗学による研究成果であろう。諸本の調査による『正法眼蔵』の全貌の解明や現代日本語による翻訳や注釈が精力的に進められてきた。特に、最近、七十五巻本と十二巻本という二つのテキストの関係や道元思想の整合性についての議論が行われ、前者はまだ道元としては不十分なものであって、晩年の十二巻本と言われるものこそ道元が最終的に到達した思想が表明されているものだという見解が提示されている。これは今までの道元解釈を大きく変えるような説として多くの注目を集めてはいるが、そのような説が出された背景には、道元禅をめぐる曹洞宗学の〈大きな物語〉が前提にあったと認められる。その結果、道元の『正法眼蔵』の位置づけをめぐる宗門内と宗門外の研究者の間にギャップが生じ、道元禅としての魅力がかえって不透明になってしまっているところがあるように思われるのである。

(2). 欧米における研究動向は多く分けると二つのタイプになる。一つは『正法眼蔵』の欧文翻訳を中心とする基礎的研究であり、

もう一つは西洋哲学の観点からの同書の主要な概念に関する哲学的研究である。近年、ポストモダンの思潮に基づく道元論も現れてきており、注目に値すべき動向ではある。しかし、彼らは道元の『正法眼蔵』の思想的文脈そのものを踏まえてその思想を論じようとしているのではなく、あくまでも現代の欧米における問題関心にに基づいているのである。そのため、道元は日本の宗教者であるというよりも、〈日本文化の代表者〉もしくは〈21世紀の自然環境保護のための教師〉として強調されているところがあるように思われるのである。

他方、応募者のこれまでの道元研究による影響で、近年、中国語圏においても『正法眼蔵』思想への注目が見られ始め、道元禅を博士論文のテーマとする研究さえあると聞いている。とても有意義な動向であるが、確かな成果は今後に待たれるのであろう。

このように、道元の『正法眼蔵』は、これまで国内外において、多方面から注目され、研究されてきたが、同時に、それぞれの問題関心の偏向により、依然として多くの課題が残されているように思われる。特に肝心な『正法眼蔵』の思想そのものについては、テキストの文脈に即した体系的な理解がそれほどなされていないのである。道元が『正法眼蔵』を撰述したのには、道元自身の意図があったのであり、また、『正法眼蔵』が長年読まれてきたのには、本書自身の独自の思想や問題関心があったと考えられるからである。『正法眼蔵』思想の宗教学的研究を目指す本研究の理由はここにこそあるのである。

このような研究に至った着想の経緯は、さしあたり以下の二つの点による。一つは応募者がこれまで道元における中国禅思想の理解について、文献的考察を加えつつ、思想的に解明しようとしてきた点である。その成

果は『道元と中国禅思想』（2000年、法蔵館）として出版され、日本宗教学会賞を受賞しているが、そこで最も注目した点は、中国禅思想との関係であり、『正法眼蔵』そのものの精読や体系的な理解が必要であるとの認識があったが、正面から取り組むことはしなかった。もう一つは、そのような研究を踏まえつつ、『正法眼蔵』の中国語訳を行った点である。本書の中国語訳は、応募者による翻訳が初めてであり、中国国内はもちろん、日本や欧米などでも大変な話題を呼んでいるようである。そうした中国語訳を通じて、応募者は、テキストとしての『正法眼蔵』の成立の背景についての再検討の必要性や思想書としての『正法眼蔵』の精読の意味を新たに再確認させられたのである。

これまでの研究成果を発展させるためには、道元の『正法眼蔵』そのものにもう一度立ち戻って、テキストへの正確な読解と理解が必要であり、その場合、さしあたり語学的な（主として中国語訳）観点によるテキストの成立についての考察、および思想的・哲学的観点に基づくテキスト全体への体系的な理解がその主たる内容にならう。

2. 研究の目的

この研究は、日本の仏教の中でも思想書として広く読まれ、大きな影響を与えてきた道元の主著『正法眼蔵』を取り上げ、その禅思想の宗教学的研究を目指すものである。第一に語学的（主として中国語訳）な観点によるテキストの成立についての再検討、第二に思想的・哲学的観点からの解釈に基づきながらのテキスト全体についての体系的な理解を目標としている。この作業を通じて、難解な本書の仏教思想史、および日本宗教史上の位置づけを検討しようというものである。

3. 研究の方法

本研究の目的を達成するために、具体的には文献的研究と思想的研究の両方を取り入れようとした。まず文献的研究については、これまでの種々の成果の収集につとめると共に、必要に応じて関係施設での調査を行った。思想的研究については、これまで哲学的観点からなされてきた先行研究を吟味しながら、宗教学的研究を目指す本研究の可能性と有効性を確認した上で本書全巻の思想についての体系的な理解と解釈を行った。

例えば、諸本および諸注釈の調査と収集については、すでに河村孝道による研究成果が出版されており、また、それらの写真版の一部もすでに刊行され、確認可能な状況になってはいるが、その元のテキストとの照合作業がどうしても必要な場合があるため、それらを保管している施設などへ行って実際に調査旅行を行った。

4. 研究成果

(1). 平成20年度6月に交付申請決定を受けてから、「研究実施計画」に基づき、まずは日本国内の関連施設を訪れ、諸本および諸注釈の調査と収集を行った。他方、夏休みを利用し、国外（中国）への文献調査を行うための海外旅行を実施した。具体的には、北京や杭州および湖北省の関連機関や寺院を訪れ、本研究課題に関する実地調査を行うと共に、必要な文献や中国における禅仏教研究の最新の成果などを収集することができた。

次に、そうした研究を踏まえつつ、その成果の一部を本人が所属している北海道印度哲学学会および日本宗教学会の学術大会で発表した。前者は「道元と中国」と題するものであり、北海学園大

学で開催された平成20年度学術大会にて、とくに道元の「中国観」について、『宝慶記』などの漢文文献や『正法眼蔵』諸巻における関連記述を取り上げて検討した。後者は「最近の道元研究について」と題するものであり、筑波大学で開催された67回学術大会にて発表した。具体的には『正法眼蔵』の文体について、本人による『正法眼蔵』の中国語訳を通して提出した漢文説をめぐる最近の反応を取り上げて検討した。

『正法眼蔵』思想の学問的研究が求められる今日、そうした研究活動が実施できた意義が極めて大きいと認められる。また、海外出張などによる文献調査が実施できたことも本研究の今後の展開に大いに役立ったと考える。

(2). 平成21年度6月に交付決定を受けてから、「研究実施計画」に基づき、まずは国内において『正法眼蔵』諸本および諸注釈の追跡調査と蒐集を行った。他方、道元がかつて留学していた中国の寺院に出かけ、中国における道元の足跡を辿りながら、本研究に関連する寺院の調査も行った。その際、北京や湖北省、杭州の図書館や研究機関にて、必要な文献や中国における禅研究の最新の成果などを蒐集することができた。

次に、本研究に関する成果の一部を本人が所属している日本宗教学会などで発表した。具体的には、9月に京都大学で開催された第68回学術大会にて、「思想としての宗教」という大会テーマに沿い、「近現代における道元の発見」というパネルを企画したことになるが、ドイツやアメリカの研究者を呼んで、研究発表を行い、意見交換をした意義が大きかった。私はこのパネルで特に中国語圏における道元の発見と受容に関する調査研究を台湾に於ける事例を通して報告した。欧米以

外の国や地域での道元研究についての報告がこれまで皆無だったことを考慮すれば、これも大きな意味を持つものと言えよう。また、11月にカナダのモントリオールで開催されたアメリカ宗教学会(AAR)年次大会にて、「Reflections on The Heart Sutra」というパネルで、The Heart Sutra in Shobogenzoとの題で参加し、『正法眼蔵』を手がかりに、東アジアにおける般若心経の位置づけを考察しようとした。

(3). 最終年度に当たる平成22年度は、前年度に続き、6月に交付決定を受けてから、「研究実施計画」に基づき、まずは諸本および諸注釈の調査と蒐集を行ってきた。その際はこれまでの研究を踏まえつつ、諸本の所在に関する確認作業を中心に行った。他方、本研究に関する寺院の調査も行ったが、それらの調査を通じて、文献研究と共に、実地調査の必要性も再度確認できたのである。

また、本研究に関する成果の一部を国際会議で発表してきた。6月に台湾大学で開催されたThe Second Annual Meeting, 2010 Society for Cultural Interaction in Asiaにて`Dogen and the Chinese Chan-Buddhism` On the Identity and Difference Between Dogen and Ru-Jing about Cultivation & Enlightenmentと題する発表を行った。9月に広州で開催された「禅宗六祖文化節」のシンポジウムで、「禅宗研究第一人者：柳田聖山と中国禅宗史研究」と題する研究を発表、中では特に柳田禅学における道元研究の意義が強調された。3月末～4初旬にハワイで開催されたAssociation for Asian Studies 2011 Conference`の際、アメリカの大学の友人と共同でNew Directions in the Study of East Asian Zen Buddhismというパネルを企画し、The Zen Oxherding Pictures and Kyoto-School Philosophy`を発表する予定

であったが、3.11の地震のため、要旨のみの発表となってしまった。とても残念なことである。

文献調査と寺院における実地調査および国際会議での発表などができたことの意義は大きく、今後の研究の進展に大いに役立つものとする。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 何燕生、中国語圏における道元の発見、宗教研究、日本宗教学会誌、査読有、363巻、2009、206-207.
- ② 何燕生、Dogen and the Chinese Chan-Buddhism、The Second Annual Meeting, 2010 Society for Cultural Interaction in Asia、Vol. 2, 2010, 203-205.
- ③ 何燕生、On the Identity and Difference Between Dogen and Ru-Jing about Cultivation&Enlightenment, The Second Annual Meeting, 2010 Society for Cultural Interaction in Asia、Vol. 2, 2010, 126-128.
- ④ 何燕生、禅宗研究第一人：柳田聖山与中国禅宗史研究、禅宗六祖文化節學術討論會論文集、宗教文化出版社、2010、395-421.

[学会発表] (計5件)

1. 何燕生、道元と中国、北海道印度哲学仏教学会、2008年8月30日、北海学園大学。
2. 何燕生、最近の道元研究について、日本宗教学会、2008年9月15日、筑波大学。
3. 何燕生、中国語圏における道元の発見、日本宗教学会、2009年9月13日、京都大学。
4. 何燕生、The Heart Sutra in Shobogenzo、American Academy of Religion、2009年11月9日、Montréal, Québec, Canada.
5. 何燕生、The Zen Oxherding Pictures and Kyoto-School Philosophy、Association for Asian Studies 2011 Conference、2011年3月31日、ハワイ。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

何 燕生 (HE YANSHENG)

郡山女子大学短期大学部・准教授

研究者番号：0292186